

THE RON CARTER Quartet

Mr. ジャズ・ベースがカルテットで登場
レジェンドを体感する至高のステージ

Payton Crossley (ds)
ペイトン・クロスリー (ドラムス)

Renee Rosnes (p)
リニー・ロスネス (ピアノ)

Ron Carter (b)
ロン・カーター (ベース)

Jimmy Greene (t sax)
ジミー・グリーン (テナーサックス)

2026.1.18 sun 山形テルサホール
開場 14:00 / 開演 15:00

一般発売
10.24金
10:00~

ホワイエにてドリンクカウンターOPEN (アルコール・ソフトドリンク) [協力] Ritz Garden

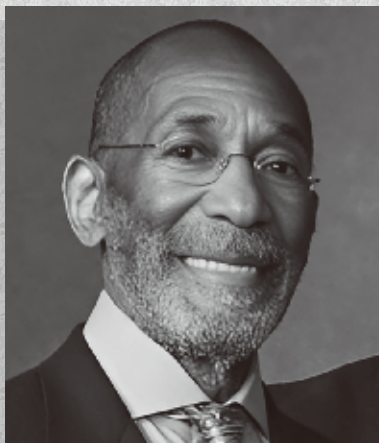
チケット料 [全席指定]	S席一般	A席一般
	8,000円	7,000円
テルサメンバーズ有料会員 賛助会員価格	7,500円	6,500円

チケット販売先

山形テルサ[窓口]9:00~17:00(水曜定休)
[WEB] <https://p-ticket.jp/yamagataterrsa>
富岡本店[窓口]10:30~18:30(火曜定休)
JAZZ喫茶OCTET[窓口]11:00~20:00(不定休)
ローソンチケット(Lコード:22794)
チケットぴあ(Pコード:311-459)



※未就学児のお子さまの同伴・入場はご遠慮ください。なお、当日は2歳から未就学児までのお子様をお預かりする「無料キッズルーム」を開設いたします。ご利用希望の方は、1月8日(木)まで山形テルサにお申し込みください。
※お車でのお越しの際は、近隣の駐車場(有料)をご利用ください。また、混雑が予想されますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
※最新情報につきましては、山形テルサのホームページにてご確認ください。



Ron Carter (b) | ロン・カーター (ベース)

10歳からチェロを始め、ハイスクール時代にベースに転向。イーストマン音楽院で学位を取得後、チコ・ハミルトンのバンドで本格的なプロ活動を開始し、マンハッタン音楽学校にも入学(1961年に修士号を取得)。エリック・ドルフィー、ビル・エヴァンス、ウェス・モンゴメリーらとの共演を経て、63年から68年にかけてはマイルス・デイヴィス・クインテットに在籍。ハービー・ハンコックやトニー・ウィリアムスとリズム・セクションを構成し、ジャズ界に新風を吹き込んだ。70年代初頭から半ばにかけては、ジャズの大衆化に貢献したレーベル“CTI”のベーシストとして多忙を極め、ジョージ・ベンソンやジム・ホール等の作品に参加するほか、『Spanish Blue』など数々のリーダー作も発表した。70年代後半にはハンコック、ウィリアムス、フレディ・ハバード、ウェイン・ショーターとの“VSOPクインテット”でも活動、87年には映画『ラウンド・ミッドナイト』の音楽で初のグラミー賞を獲得した。2022年にはドキュメンタリー・フィルム『Ron Carter: Finding the Right Notes』が製作されている。精力的なライブ活動、教育活動のいっぽうで、2200種を超えるレコーディング・セッションに名を刻んできた。そのベース演奏を求めたミュージシャンはジャズ界に限らず、ビリー・ジョエル、ロバータ・フラック、ア・トライブ・コールド・クエストにまで及ぶ。

自ら発明したメロディ楽器“ピッコロ・ベース”をフィーチャーしたユニット、ドラムレス編成で室内乐的なジャズに取り組む“ザ・ゴールデン・ストライカー・トリオ”等でも来日公演を行ってきたが、今回はワン・ホーン・カルテット“フォーサイト”によるステージ。70年に及ぶキャリアが反映された、豊かなモダン・ジャズを届けてくれることだろう。

リニー・ロスネス (ピアノ)

Renee Rosnes (p)

カナダ中西部のサスカチュワン州生まれ。3歳からクラシック・ピアノを学び、10代でジャズに開眼。1985年ニューヨークへ渡り、ジョー・ヘンダーソン、ウェイン・ショーター、J.J.ジョンソンらと共演。2004年から2009年にかけてはSFジャズ・コレクティブの初代ピアニストを務めた。ロン・カーターとは80年代から数々のセッションで共演し、2012年からは“フォーサイト”の一員としても活動。自身のグループによる活動のほか、女性ミュージシャンで構成されたユニット“アルテミス”での活動も軌道に乗せている。2018年にはモントリオール・ジャズ祭が制定した「オスカー・ピーターソン賞」を受賞。また、“カナダのグラミー賞”ことJuno Awardの常連ミュージシャンのひとりでもある。



Jimmy Greene (t sax)

ジミー・グリーン (テナーサックス)

6歳からサックスを始め、コネチカット州ハートフォードの教育機関「アーティスト・コレクティブ」ではジャッキー・マクリーンに学んだ。1997年からプロ・ミュージシャンとしての活動を本格的に始め、ホレス・シルヴァー、フレディ・ハバード、トム・ハレル、ハリー・コニックJr.、アヴィシヤイ・コーエンらと共演。パット・メセニー、クリスチャン・マクブライド、リニー・ロスネスらが参加した2014年発表のリーダー・アルバム『Beautiful Life』はジャズ・チャートのベスト5にランクインした。現在はウェスタン・コネチカット州立大学の音楽教授も務めている。2025年夏、自身のレーベル“GREENE MUSIC WORKS”からの第1弾アルバム『As We Are Now』を発表した。

ペイトン・クロスリー (ドラムス)

Payton Crossley (ds)

14歳から18歳にかけて、アラン・ドーソン(トニー・ウィリアムスの師としても知られる)のもとで学び、20歳でアーマッド・ジャマル・トリオに参加。1982年に脱退後はジミー・スコット、オナージェ・アラン・ガムズらと共演し、美しい音色と堅実なプレイでミュージシャンの間から厚い支持を得て現在に至っている。ロン・カーターのアルバムには90年代から参加しており、『Orfeu』、『Dear Miles』、『Foursight - The Complete Stockholm Tapes』等のアルバムで彼のプレイを聴くことができる。また、ドラムについては、「あらゆるものの鼓動。原始的なニュアンスから繊細なニュアンスまで、音楽で捉えられるあらゆるものを表現できる楽器である」と発言している。



人にやさしく、自然を大切に
遠藤商事

代表取締役社長 遠藤 靖彦

本社 / 〒990-8558 山形市穂積 85 TEL:023-631-1331 FAX:023-625-1633